

両横綱視界良好

紙相撲新聞

第150回本場所
初日～二日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

美空、若嶋、春翔は安定の 2連勝。魁電は不覚の2連敗

【第百五十回本場所初日～二日目】

紙相撲本場所は先場所の千秋楽より一ヶ月半ぶりの9月23日、早朝の雨が上がり蒸し暑さを感じる気候のもと、叩き手の勝間田親方の都合により変則的な開催となり、幕内十両の初日と二日目とが練馬国技館にて取り行われた。



↑初日に続き二日目も月山を圧倒。今場所も速攻相撲は健在で、3連覇に向けて弱点は見当たらない。

←若嶋も組手が決まらず手こずりながらも英筏を倒し、2連勝。悲願の横綱初優勝を果たせるか。

令和となって二場所目の本場所は数えること第150回の節目の場所となり、先場所の連覇で今年の完全制覇を狙う横綱美空富士を中心に優勝争いが展開される大方の予想のなか、2連勝で好スタートを切ったのは美空富士、若乃嶋の両横綱に大関春ノ翔、関脇佐賀ノ海と平幕の7力士。

先場所は優勝に準ずる活躍を見せた大関春ノ翔、初日は新鋭の月山との一番。立会いから一気に前に出て月山には何もさせず、左を伺いながら正面土俵に寄り切って初日を飾ると、二日目は大神楽戦でも立会いの鋭い出足から一気に攻め立て、初日同様廻しにこだわることなく大神楽には一歩も踏み込まず、正面土俵に寄り切って2連勝で今場所をスタートさせた。美空富士に負けず劣らずの秒殺に退け三日目以降も優勝戦線を賑わせてくれそうだ。

他には佐賀海、虎剛力、出羽翼、虎風、朱雀湖、寶蔵、大江錦、生駒山、綱嵐がそれぞれ2連勝で好スタートを切った。また今場所ただ一人入幕を果たした九十九部屋から3人目の幕内力士となる日向藤は幕内力士の洗礼を受け2連敗で苦いデビューとなった。

まだ序盤の二日目が終わったばかりだが美空富士、若乃嶋、春ノ翔、佐賀ノ海の上位陣を中心に優勝争いが展開することだろう。この4名に平幕力士がどこまで追走してくるのか、まだまだ予想もつかない展開だが、三日目以降も土俵上での熱戦に期待したい。その熱戦を期待する次開催は2週間後の10月6日に予定されている。全国の熱心な紙相撲ファンの方々に乞うご期待！
(香具山)

照王、千代鈴、絶好調

十両では2連勝と好スタートを切った中で、特に目を引いたのは照の王、千代鈴、繁ノ城の3人だ。

照の王は、糖尿病を患っていたのが癒えたとかで見違えるような相撲ぶりをみせた。場所前に行なわれた稽古総見に参加し、大関に駆け上がった時のようなどっしりとした力強い相撲で周囲を驚かせた。久しぶりに照の王を相手に稽古をした横綱若乃嶋は「完全に力が戻ったね。びっくりしたよ。この復活はうれしいね。ぜひ、本場所でも対戦したいね！」とその復活を喜んでくれた。

初日は同門の鬼ヶ嶽と元大関同士の取組みに館内が大いに湧いた。それもそのはず、元大関同士の十両での対戦は紙相撲史上初のこと。館内では「照の王！鬼ヶ嶽！」と大きな声援が送られていた。結果は、照の王が寄り切ったの圧勝だった。

2人目は西磯野改め千代鈴だ。昭和の時代に幕内で活躍した四股名を二代目として継いで改名した。先場所は他の追従を許さない完璧な相撲で11戦全勝で優勝を飾った。初土俵以来、まだ1敗しかしておらず、今場所も死角なしとみられている。誰が土をつけるのか？。将来の大関、横綱と云っていい逸材だけに、今場所も連続全勝優勝かと期待される。

そして3人目は再十両の繁ノ城だ。デビュー以来、その体軀から注目を集めていたが、十両に上がったものの、そこからしばらく低迷。「どうした！繁ノ城！」と紙相撲ファンからの声援が送られていたが、再び十両に上がった、これまでとちよっと違った相撲をみせた。今場所の活躍が楽しみになっている。
(錦風)



大樽●(寄り切り)○千代鈴



鬼ヶ嶽●(寄り切り)○照の王